

ご挨拶 山尾 敏孝 蘇遙会会長



今年は例年になく早く梅雨明けしましたが、厳しい暑さが続いています。蘇遙会会員の皆様は如何でしょうか。6月の大阪北部の地震

の傷も癒えぬうちに、7月上旬には西日本各地が記録的な豪雨により従来とは比較にならない広範囲でかつ大きな被災の爪痕を残しました。被災されました方々に心より哀悼の意を表します。

さて、この度、北園前会長の後を今年の5月より引き受けることになりました。北園先生には永きにわたり、会長として携わっていただき、蘇遙会の発展に尽力をされてきました。厚くお礼を申し上げますとともに本当にご苦労様でした。今後、会長職を引き受ける以上、微力ですが力を尽し、精神を尽くして、学生と卒業生及び教室との関係を円滑にできますよう努力したいと思います。

「蘇遙会」が産声をあげて30年以上になりますが、時代と共に大きく変化しています。当初は、卒業生の情報入手の手段としての「蘇遙会名簿」作成が大きな仕事であり、いかにして正確な名簿を作成するかが一番重要でした。特に、異動が激しい土木系の会社に勤める卒業生の住所更新は大変でした。一方、名簿作成に関する費用の支出も大きくなり、いかに安く正確に作成するかに最も労力を注いだ経緯があります。しかし、個人情報保護法ができた後は、卒業生の情報収集が途端に厳しくなり、かつ作成した名簿が第三者にわたり販売されるようなこともあった

ため、名簿作成の情報収集は決して簡単ではありませんでした。現在は名簿発行を中止し、「熊本大学蘇遙会同窓会システム」に各自が個人IDによりログインし、データ更新をすることになっています。会員は卒業生の情報も閲覧可能です。蘇遙会の活動発信として「蘇遙会情報誌」の発行ならびに「蘇遙会ホームページ」を立ち上げています (<http://www.web-dousoukai.com/soyoukai/>)。学生や卒業生及び教室の活動をこの少ない紙面で報告し、さらにホームページに掲載しているところです。しかし、卒業生と教室・学生との交流が必ずしも活発とは言えない状況ですので、これらを活性化する方策も課題です。

このような蘇遙会活動を円滑にするため、運営委員会（運営委員長：辻本教授、5つの工業会支部土木部会代表、学生代表）を毎年1回、5月に熊本大学で開催し、活動状況や会費などの課題について協議しています。しかし、年に1度の開催では課題解決には十分な時間が取れないことや、今年の学科改組に伴う蘇遙会会則変更と会費の問題、情報誌の在り方、卒業生による学生支援の在り方、名簿の発行など、検討すべき事項や課題が増えつつあるようです。そこで学科内の教員と学生を交えた学科内運営委員会を開催して、これらの課題についてできることから検討し、必要があれば蘇遙会運営委員会を臨時に開催するなど解決に向けて努力したいと思います。卒業生の皆様にもご意見を遠慮なくお願いしたいと思います。

今後とも、蘇遙会会員皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

◆土木建築学科
(土木工学教育プログラムおよび
地域デザイン教育プログラム)
および
社会環境工学科 学生数

〔学部〕

1年：72名
2年：77名
3年：83名
(うち編入7名)
4年：85名

〔修士〕

1年：44名
2年：34名

〔博士〕

25名

※学生数はH30年4月末現在の
留学生、社会人ドクターおよび休
学者を含む。

〔発行所〕 蘇遙会事務局

〒860-8555
熊本市中央区黒髪2丁目39-1
熊本大学工学部土木建築学科
土木教室内
Tel：096(342)3544
Fax：096(342)3507

E-mail：
soyoukai@kumamoto-u.ac.jp

HP：
<https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/>

〔印刷〕

〒583-0043
大阪市鶴見区今津南2-7-6
(有)プリンティングサービス

平成30年度 蘇遙会運営委員会を開催しました

※詳細はホームページ (<https://www.web-dousoukai.com/soyoukai/>)
運営委員会→平成30年度運営委員会報告 をご覧ください。

3 度目の統合 運営委員長 辻本 剛三

熊本大学土木工学科は 1897 年明治 30 年に誕生し、国内でも 3 番目に古い開設の歴史があり、35 年後の 1932 年昭和 17 年に建築工学科が誕生しました。昭和 19 年に校名・科名の改称により土木科と建築科に改められ、昭和 24 年の学制改革による工学部発足に伴い 1 つの学科として土木建築工学科がスタートしました。新しい学科には土木系と建築系のコースがあり、後の土木工学科と建築学科への分設（昭和 30 年）の基になりました。その後、環境建設工学科の土木コースとの統合により、土木環境工学科として平成 7 年まで独立した学科として、歩んできました。教養部の廃止等による改革において、土木環境工学科と建築学科は、2 度目の統合で環境システム工学科になり、平成 18 年には、社会環境工学科と建築学科に再び分設されて、平成 30 年度の 3 回目の統合により土木建築学科が誕生しました。

新学科では 3 つの教育プログラム（土木工学、地域デザイン、建築学）が用意され、内、土木工学と地域デザインが土木系の教育プログラムになっています。前者は社会基盤施設の調査・計画・設計・建設・管理、資源循環型の環境保全に関する幅広い視野と知識、および高い専門技術力を有する人材、後者は、防災・減災、まちづくり、景観デザインなど複雑な地域社会の諸問題に対する解決策を導き、まちづくりや公共政策の実践の中で次世代型社会システムを構築できる能力を有する人材の育成を目的としています。今年度は、入学時に旧学科の背番号が付いているために、2 年次でのプログラム配属は前述の 2 プログラムからの選択になっていますが、次年度からは背番号無しの学生となり 3 プログラムからの選択になります。

過去、土木系・建築系は常に統合・分設の波にさらされていますが、土木系の同窓会組織である蘇遙会は、新しい学科においても着実に歴史を刻んでいくと信じています。



1 号館工事現場(2018 年 8 月 2 日撮影)

6月29日(金)の午後、毎年恒例の山水会土木部会（蘇遙会東京支部）出前講義を開催しました。今年度の講師は、菊池会長(S53卒)をはじめとして、総勢11名で熊大に出張しました。3年生を中心に、82名の学生が参加し、有意義な出前講義を行うことが出来ました。今年度は、恒例のグループワークのテーマとして「どんな社会人になりたいか？どんな働き方をしたいか？」を選び、各講師が学生を取りまとめるファシリテーターを務めました。講師を代表して、以下の2名の方から感想を頂きましたのでご紹介します。

尾崎(H28卒)：今回初めて講師を経験し、その中で一番若手ということもあり、学生目線で話すことを心がけました。就活の際に選考根拠となる仕事内容や一番大事にしたいこと（人間関係／プライベート／やりがい）等は、社会にでて初めて学び、実感することでもあります。出前講義やインターンシップ、先輩方との関りを通して、自分の社会人像をイメージすることが重要だと思います。熊大土木系卒業生の絆は、他大学に誇れる部分ですので、学生の皆さんは大いに活用し、卒業後は後輩につなげていって欲しいと思います。

佐々木(H27卒)：2回目の出前講義では、以前より学生の意見を吸収できたと思います。印象的だったのは2点で、1点目は仕事選びには、やりがいや達成感よりもプライベート重視の学生が多いということです。私個人としては、生産性の高い仕事を目指すことで、両者を獲得できると考えていますし、自己研鑽を重ねることがより重要だと再認識しました。2点目は、民間企業はきつい、公務員は安定で楽、という漠然としたイメージが定着しているということです。今回、公務員の方の講義内容が学生のイメージとギャップが大きかった様です。イメージだけで自分の進路の選択肢を狭めるのではなく、出来るだけ広い視野を持って欲しいと感じました。

平成 30 年度山水会土木部会（蘇遙会東京支部）

出前講義を開催 山水会 坂西 由弘

◆ 出前講義講師および山水会幹事

()内は学部/院卒年

山本 健次郎 氏(H18/20)	日鐵住金建材(株)
富本 和也 氏 (H22/-)	国交省 九州地方整備局
田頭 唯人 氏 (H23/25)	鹿島建設(株)
田代 達郎 氏 (H23/25)	東京都 下水道局
島袋 武 氏 (-/H27)	(株)建設技術研究所
阿蘇品 昇吾 氏(H26/-)	(株)NIPPO
尾崎 友紀 氏 (H28/-)	八千代エンジニアリング(株)
菊池 良介 氏 (S53/55)	大日本土木(株)
松木 重夫 氏 (S61/-)	(株)NIPPO
坂西 由弘 氏 (H18/20)	鹿島建設(株)
佐々木 菜緒 氏(H27/-)	鹿島建設(株)

※学生の感想を11ページに掲載しています。

卒業生の皆様方におかれましては、益々ご健勝で活躍のことと存じ、お慶び申し上げます。また、平素より本教室へのご支援に深く御礼申し上げます。

さて、平成 30 年 6 月末から 7 月 9 日にかけて、西日本を中心に近畿、中部さらに北海道までに及ぶ未曾有の豪雨災害が発生しました。まさしく度重なる甚大な自然災害を目のあたりにし、改めて自然の脅威に畏怖いたし、これらにより被災された皆様に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復旧、ご回復をお祈りいたします。

昨 2017 年 9 月をもちまして、旧制第五高等学校工学部土木工学科の流れを汲む本教室は 120 周年を迎えることができました。以来、当教室が輩出してきた土木技術者は、幾多の自然災害に対して人命と財産を守るための事業に心血を注いできました。これからも持続可能な社会を実現すべく、多方面において活躍できるような人材がこの教室で育ち、この教室を巣立って行かれるように願います。被災地支援に学生も参画するくまもと水循環・減災研究教育センター「ましきラボ」の活動や、始動から遂に 10 年となる災害復旧学生ボランティア団体「熊助組」の活躍など、相変わらず土木教室の学生は頼もしく、特筆すべきは、認定特定非営利活動法人日本防

災士機構様より平成 29 年度防災士表彰「防災士功労賞」を「熊助組」が受賞したことです。学生の団体としては初めての名誉で誇らしい限りです。

本教室はそのほとんどが一昨年より工学部仮設プレハブ校舎に移転しており、プレハブ特有の厳寒と二度目の酷暑を迎えております。建設当初は仮設とはいえ堅牢で清潔に思えたプレハブ校舎もやはり一年以上が経過すると軋みや変形がやや大きくなるなどしており、新しく建設中の新校舎の竣工が待たれるところです。新校舎は 3 月中頃全館竣工の予定で、酷暑にも拘らず不断の工事が行われており大変有難く思います。今年 4 月より教室の本拠は土木建築学科となりましたが、来春こそ実質的な再起動が果たせるのではないかと心待ちにいたしております。

以上土木教室の近況をご報告するとともに今後の蘇遙会会員の皆様のご活躍とご健勝を祈念し、ごあいさつに代えさせていただきます。

平成 30 年 7 月 20 日

工学部仮設校舎にて記す

会費納入のお願い ～納付したいと思う仕組みづくりへ～

蘇遙会は在学生への支援として、蘇遙会の収入より蘇遙会学生部活動費を拠出しており、それを受けて学生部は新生歓迎会などの懇親会の開催、運動会、紫熊祭（大学祭）への参加を行います。他県から親元を離れて進学してきた学生や、なかなか大学になじめない学生などの不安を払拭し、仲間意識を強め、ひいては学業や日常生活に前向きになれるような活動に力を入れています。

また、「出前講座」に講師として来ていただく OB、OG の方々の旅費は、現在、東京支部または個人の持ち出しとなっております。蘇遙会ではこの旅費を全額負担できるよう、全会員の皆様のご協力を仰いでいきたいと思っています。

2017 年度会費の納入を依頼した会員 3,434 件中、**371 件**（学生会員除く、終身会員含む）の納付がありました。現在、未納者への督促は行っておらず、ペナルティ等も課しておりません。例えば、3,400 名もの会員が年間 3,000 円の会費を払っていただくと、約 1,000 万円もの会費収入となります。しかし、会の運営にこのような多額な収入は必要なく、会員全員が会費をお支払いいただくとして、H30 年度予算から負担額を計算すれば、お 1 人当たりの会費は **約 624 円** となります。多くの会員に毎回納付いただければ、それだけ会員自身のご負担が減ることに繋がります。

そのためには、蘇遙会の活動を会員の皆様に知っていただき、会費の使い道やその成果をお知らせするなど、会員の皆様が会費を納付したいと思っていただける仕組みを模索し、魅力ある情報を会員の皆様にお届けしなければならぬと思っています。ご意見、ご提案をご教示願います。

皆様のご理解とご協力をいただき、後輩である在学生たちに多くのご支援を賜りたく、会費の納入をお願いする次第です。

メールアドレスの登録をお願いします。

会員の方から「メールやニュースレターで情報を受け取れないか」というご意見がありました。昨今、電子メールは一般的な連絡手段となりつつあり、また印刷費、郵送費などの軽減にもなります。ホームページログイン後、会員情報欄の「事務局からの連絡先」で受け取り方法を郵送またはメールが選択できます。平成 30 年 7 月末現在は 54 名の方が情報誌を Eメールで受け取るように設定していただいています。また、転居などで郵送での連絡ができなくなった場合にもメールアドレスが変わっていなければご連絡を差し上げることが可能ですし、アドレスの公開設定を「同期生に公開」または「全卒業生に公開」を選択いただければ、研究室からのご連絡先として利用することも可能になります。まずは**メールアドレスのご登録、更新**をお願いいたします。

寄稿

白川と鶴田公園 蘇遙会東京支部長(土木 53 年卒) 菊池 良介 氏

大甲橋から上流側を見ると、白川の水面に兩岸の緑、奥の立田山の深い緑が織りなす美しい景色が望めます。この白川の右岸（大甲橋から見ると左側）が鶴田公園です。

昭和 28 年の白川大水害（6.26 水害）は熊本市街の下通りで 3m 浸水し 422 名の方が亡くなりました。これを契機に国が直轄で白川の治水工事を行うことになりました。

治水工事は河口から順次、用地買収を行っていくので、市街地の築堤を始めるのに時間を要します。白川河岸の殆どの家は洪水で流されていましたが、放置しておくとも再び建築物が建ってしまうので、熊本市が将来の堤防用地を先行買収してくれていました。

私が建設省熊本工事事務所に赴任した昭和 61 年頃には、地元のご老人（鶴田さん）がこの空き地に 30 年かけて桜を植え、遊歩道、長椅子を設置して素敵な沿川公園になっていました。

当時、「緑の 3 倍増計画」を推し進める熊本県政の中、新聞の反対キャンペーンが始まりました。熊本市街地が治水上非常に危険な状況にある事を記者に説明すると納得してくれるのですが、実際の記事は「怪しからん。緑を残せ。」の論調です。事務所の広報を担当する私は毎日押しかけて来る反対派の方々の対応とマスコミの取材対応に忙殺される毎日で、事務所長から「君は左遷だから、もう来なくて良い。」と言われる夢をよく見ました。

ただ、当時反対していた熊本文化協会が押しかけてきた時、副会長の一人が残って「自分は 6.26 の時に部下が洪水に流されて行くのを悔し涙で見送るしかなかった。水害に合った人は高台に引っ越して、反対している人は水害後に移ってきた人。頑張っ



菊池 良介 氏

て欲しい。」と言われたことや、取材班のリーダーが「我々は知事の為に記事は書かない。熊本の為になるかどうかで判断する。」言われたことには勇気付けられました。

その後、反対派の方にも参加頂いて白川河川懇談会を立上げ、何年もかけて議論を重ねた結果、堤防を土堤からパラペット（コンクリート壁）堤に変更して緑のかなりの部分を残す計画にし、平成 22 年に鶴田公園の治水工事は完成しました。

堤防完成 2 年後の平成 24 年洪水では、白川は過去最高水位を記録しました。新堤防では天端まであと 30cm にまで洪水が迫りましたが、越水は免れ、熊本中心市街地を守ったと聞いて本当に嬉しかったことを思い出します。

皆さんも、大甲橋界隈に出られた時は、鶴田公園の堤防を見て頂ければと思います。

◆蘇遙会会員数

(H30 年 8 月 15 日現在 物故者除く)

北海道	6	滋賀県	8
青森県	1	京都府	24
岩手県	3	大阪府	83
宮城県	10	兵庫県	71
秋田県	0	奈良県	13
山形県	0	和歌山県	6
福島県	3	鳥取県	4
茨城県	20	島根県	8
栃木県	4	岡山県	13
群馬県	9	広島県	52
埼玉県	46	山口県	67
千葉県	94	徳島県	6
東京都	139	香川県	6
神奈川県	98	愛媛県	21
新潟県	3	高知県	8
富山県	0	福岡県	903
石川県	1	佐賀県	119
福井県	2	長崎県	175
山梨県	3	熊本県	818
長野県	1	大分県	218
岐阜県	6	宮崎県	148
静岡県	7	鹿児島県	156
愛知県	36	沖縄県	6
三重県	5	不明・その他	533
合計	3963 名		

※所在は登録連絡先の住所

太田育英奨学金 平成 29 年度受給者報告（全文は HP に記載）

環境建設材料工学研究室 4 年 野内 皓介

この度は、平成 29 年度の太田育英奨学金を授与していただき心よりお礼申し上げます。給付していただいた奨学金は、以下の活動に使用させて頂きましたのでここにご報告いたします。

・2017 年 7 月 22 日～8 月 5 日 ドイツ フロイデンシュタットで行われたワークキャンプに参加（概要略）

以上の活動を主たる用途として太田育英奨学金を利用いたしました。貴奨学金をいただいたことで、大変充実した 1 年を過ごすことができました。この 1 年間で経験した貴重な時間は、これから大学院で研究をしていくうえでも非常に価値のあるものであったと思います。今後の大学院生活では、この貴重な経験をもとに、さらなる精進を重ねていきたいと思っております。最後になりましたが、本奨学金を授与していただいたことに、重ねて深く御礼を申し上げます。

福井育英奨学金 平成 29 年度受給者名および就職先

修士 2 年 秋山 秀樹 国土交通省
 修士 2 年 上杉 幸輔 国土交通省

平成 30 年度 新社会人歓迎会

開催日 平成 30 年 5 月 26 日 (土)

場 所 熊本大学 くすの木会館

参加者 48 名

今年も若手の幹事を中心として、小林一郎先生(工業会熊本支部土木部会副会長)をはじめ、各方面の卒業生の皆様のご協力のもと、新社会人歓迎会を熊本大学黒髪北キャンパス内くすの木会館で実施いたしました。

歓迎会では、まず今年度から九州に戻って来られた卒業生と今年卒業したばかりの新社会人に抱負を語って

いただきました。新社会人の方々の抱負も先輩に負けず劣らず立派で、将来を見据えて今後の展望を自らの言葉でしっかりと語っていたのが印象的でした。社会に出たばかりで不安なことも多い新社会人にとっては、様々な世代の先輩方と接する機会を得たことで、少しは心強さを感じたのではないのでしょうか。その一方、若い世代の頑張りも、会に参加していた他の卒業生にとっても良い刺激になったと思います。

さらに、大学の先生方や現役の学生にも参加していただきましたが、卒業以来先生方と会う機会がなかったという卒業生もいらっしたため、思い出話などで盛り上がっていたようです。また、現役の学生が参加して若い風を吹き込むことで会全体に活気がでたように感じました。

今後も、若手の幹事が中心になってこの新社会人歓迎会の開催を継続し、若手が参加しやすく、楽しい集まりにすることを目標に活動してまいります。そして、より多くの方に参加し

ていただくことで、卒業生同士の繋がりを強固にし、今後の活動を盛り上げていきかけとなればと思います。

今後とも、皆様のご参加・ご協力をよろしく願います。

(熊本支部 新社会人歓迎会 幹事一同)

◇卒業生の動向◇

【物故者】2017 年 7 月～2018 年 7 月にご連絡があった方。卒・修年は蘇遙会正会員となった年、()内は没年月。

■熊本高等工業学校

S12 卒 田辺 一男 様(没年月不明) S13 卒 古屋敷 清一 様(2004.5) S16 卒 柴田 治夫 様(2017.1)
S17 卒 井田 正美 様(2017.2) S17 卒 千原 徳夫 様(2018.7) S18 卒 鹿子木 久則 様(2016.11)
S18 卒 内藤 信哉 様(2017.5)

■熊本工業専門学校

S20 卒 柏木 安雄 様(2016.12) S22 卒 國府 義敏 様(2017.9) S22 卒 高島 勢記 様(2016.8)
S22 卒 村社 三郎 様(2017.2) S23 卒 原田 正敏 様(2014.9)

■熊本大学工学部

S28 卒 吉田 淳 様(2017.8) S30 卒 氏岡 麟助 様(2012.3) S31 卒 奥蘭 清 様(2018.7)
S31 卒 竹中 達夫 様(2015.11) S33 卒 野村 龍吉 様(2018.3) S36 卒 大貫 暉暢 様(2017.9)
S45 卒 南里 明 様(2012.6) S46 卒 永井 彰 様(没年月不明) S47 卒 岩本 明人 様(2016)
S54 卒 井本 康 様(2016.12) S56 卒 永徳 明彦 様(2017.4) H13 卒 興梠 和幸 様(2017.9)
H15 卒 原田 文隆 様(2016.1) H19 卒 野口 翔 様(2018.1)

■熊本大学大学院

H 3 修 小田 泰史 様(没年月不明)

河川研究室(大本教授・石田助教)

水というのは人が生きる上で欠かせません。一方で、本年7月の西日本豪雨など水は人にとって脅威にもなりえます。つまり、人が地球上で生きていくうえで、水の流れをコントロールする、もしくは水の流れを知ることが必要不可欠です。我々の研究室ではその必要不可欠な水をテーマに研究しています。河川の流れを現地調査や実験により詳細に調べ上げ、コントロールする上での最適解を求めます。大気中の水の流れを観測データや数値モデルを用いた解析し豪雨の発生原因を明らかにする。これらだけでなく、様々な水の流れに関わる研究を行っています。水の世紀と言われる時代に、徹底的に水について学び、研究してみませんか。

地盤工学研究室(大谷教授)

社会環境工学科に入り、多くの講義を受け様々な学問分野の知識を得ていると思います。これまでの講義で得た知識を使い、物事の真実を追求する「研究」に興味を持ってみませんか。当研究室では土質力学・地盤工学の分野をベースとして、地震や液状化など実際の地盤に起こる現象を対象に研究を行っています。研究では、実験や解析など様々な手法で目的達成のためのアプローチを行うため、多くの経験を得ることが出来ます。また日々の研究のリフレッシュを兼ねて、私たちの研究室は蘇遙会や熊本大学の幹事会が催すスポーツ大会に積極的に参加しており、研究室メンバーとの互いの仲を深めています。当研究室に興味がある方はぜひHPをご覧ください。

研究 室 紹介

地下空間工学研究室
(尾原教授・オノ木准教授)

当研究室では、主に地下空間工学・岩盤工学に関して研究を行っています。研究対象としては、岩石の力学的挙動、断層滑りによる誘発地震、地下空洞や斜面の安定性評価などがあり、実験や数値解析、現場計測を行い、あらゆる側面からアプローチして研究を進めます。このようにな多くの手法や考え方を学びたいという人におすすめの研究室です。
岩盤工学に限らず、社会問題について研究室のメンバーで議論する新聞ゼミというものも行っています。このゼミを通して、専門以外の教養も身につけることができます。
海外へ挑戦する機会もあり、毎年数名の学生が海外インターンシップに出かけています。今年も4年生1名、大学院前期課程1年生2名が、カナダ、チエコへ行きます。

地域公共政策研究室(柿本教授)

地域公共政策研究室では柿本竜治先生によるご指導の下、学生ひとりひとりが日々切磋琢磨しながら各自の研究活動に従事しています。主な研究テーマとして、最近では平成 28 年度に発生した熊本地震に関する研究を行っています。自然災害への事前の備えや車中泊者の避難行動の関係を把握するためにモデルを作成することで評価しています。

本年度では新しいパソコンが導入され、ドローンや VR などの最先端の技術を活用した研究も行われています。これまで説明した研究内容の他にも様々な研究を行っていますので本研究室に興味をお持ちいただいた方は是非一度足を運んでください。

水質環境学研究室(川越教授・伊藤助教)

社会環境工学科の皆さんにとって、“水”というのは、やっぱり水理や水文、レイノルズ数やベルヌーイ、ダルシー・・・になるのでしょうか？私たちの研究室では、“水”は“水”でも“水質”を主なターゲットにします。とはいえ、ベルヌーイだって無縁ではないですし、水理、水文が理解できなくて水質を理解することなどできません。物理学は当然、化学や生物学、時には地学も相手にします。科学の中身に区別などありません。私たちは医者ではありませんが、白衣を着てDNAさえ扱ったりします。さて、試験管に入った液体の色が変わったり、生き物が増えたりすることが面白いと思う人は是非、私たちの世界においで下さい。心よりお待ちしております。

環境建設材料工学研究室(重石教授)

当研究室は、コンクリートなどを研究対象としている材料研究室です。企業、公務員及び大学院と進路先は多岐に渡ることから、3年生の中でも、どういった職業に就きたいか自分の進路で悩んでいる人も多いかと思えます。当研究室を卒業された先輩方は、様々な方面で活躍されているので、色々な職業の選択肢にチャレンジしてみたいという方は、当研究室で学んでみることもありなのかと思います。普段の活動としては、1年生や3年生の実験の補助や研究実験棟で骨材の密度試験や吸水率試験などの実験をしています。重石先生をはじめ先輩方も優しく、真剣に相談に乗って下さるので、当研究室で活動することが私自身とても充実しています。重石研究室に少しでも興味のある方は、いつでも気軽に当研究室に足を運んで頂けると嬉しいです。

応用海岸研究室 (辻本教授)

あなたは海が好きですか？あなたは2km先まで沖方向に広がる干潟を見たことがありますか？当研究室では、熊本県の一級河川である白川河口干潟を研究対象地とし月に1度の地盤高測量や年に1度船に乗り行う深淺測量などの現地観測を行っています。

研究の背景は地球温暖化による集中豪雨、地震などの災害頻度の増加による現地の地形変動の要因を解析することです。また、実験室では海岸侵食対策、泥水中の密度流、土砂崩壊による津波などの模型実験や数値計算も行っています。数値計算や実験より得た解析結果から干潟の変動特性解析や地形の将来予測を行い、海岸、河口域を含めた沿岸域の環境保全や防災につながる研究をしています。

交通まちづくり研究室 (溝上教授)

持続可能なコンパクトシティ、市民の生活の質の向上に寄与する交通サービス、中心市街地の活性化方策について、自分の知恵と行動力で考えたいと思っている熱意あふれる学生諸君、是非、研究室をのぞいてください。当研究室は地域の抱える課題に関する調査・分析、解決策提言など、交通まちづくりに関わる種々の研究課題に対して、理論と実証だけでなく、実践的な研究を行っています。頻繁に行われる飲み会は勿論、年度末のゼミ旅行、毎年末のOB会は公式行事です。宮崎・福岡・北九州、および東京と関西には研究室の支部もあり、定期的な活動を行うなど、先輩後輩・同級生間のもとより、OBとの繋がりが極めて強いところが当研究室の最大の特徴です。



学外での勉強会参加風景

複合材料工学研究室(尾上准教授)

少子高齢化社会が進行する一方で、社会インフラの老朽化も深刻な問題となっています。当研究室では、コンクリート工学の知識を基礎として、耐久的で長持ちする建設材料の開発、i-construction に適合したプレキャスト部材接合部の開発、各種環境下でのコンクリートの劣化予測などについて研究しています。実験が主体ですが、今年度から構造計算ソフトウェアを用いた数値解析にも取り組み始めました。コンクリートは一見無機質で何の変哲もないように見えますが、実はとても味わい深いのです。アイデア次第で、可能性は大きく広がります。ぜひ一緒に研究を楽しみましょう。

深部地下環境工学研究室(佐藤准教授)

現在、当研究で主に研究している内容は「釧路頁岩の透水特性評価」「Aquo-Siloxane 法による文化財保護」「露天掘り鉱山の立坑の閉塞解析」です。

まず、釧路頁岩と文化財保護の研究については、主にX線CTを使って行います。CTを使うことで画像解析の専門的な知識も得られるためオススメの研究です。

立坑の閉塞についての研究では、立坑がどのような時に閉塞するかの数値解析をします。また簡易的な立坑を用いた模擬実験も行い、数値計算と模擬実験の2つの面から同様の研究を行うことができるのが魅力的です。

他にも蘇遙会の催しに参加したり、定期的な飲み会を開催するなど、とても仲の良い研究室ですよ！佐藤研に興味を持った方、まずはのぞきにきてみてください。

地域防災研究室(竹内准教授)

竹内研究室(地域防災研究室)では、防災・減災における人々の対応と生活について、防災教育や地区防災計画の策定、リスクコミュニケーション支援などのソフト対策を通じて地域の防災力を高めるための研究を実践的に行なっています。また、平成 28 年熊本地震のデジタルアーカイブ作成についても研究を行なっています。研究対象は、地域で活動する自主防災組織や学校、自治体など様々です。

卒業生は行政職員、ゼネコンやコンサルなど土木や災害の現場で活躍しています。

災害の被害を減らしたい! 地元を守りたい! と情熱を持った学生が集う研究室です。

地域風土計画(田中准教授)

地域風土計画研究室では、「まちづくり・地域づくり」、「文化的景観」、「土木史」をテーマとした研究・実践を行っています。近年は天草市・南阿蘇村・益城町・菊池市などを対象に、フットパス・記憶の継承・文化的景観保全に関する研究室活動を行っています。地域の歴史や文化を学び、人々の暮らしぶりを調査することで地域風土の理解を深めています。ヒアリング調査、ワークショップ、各地のまちづくり活動などにも参加し、実践的にまちづくりを学ぶことができます。研究室 O B O G や、自治体職員やコンサルタン卜、他大学や地域の方々と交流する場が多くあります。人とのつながりを大切にし、たくさんの人との出会いの中で日々成長することができます。

研 究 室 紹 介

地域水循環デザイン研究室(濱准教授)

農業土木分野を担う当研究室では、環境に調和的であり効率的な食料生産を実現するために『水・物質資源配分』、『インフラ整備と農地管理』、『地域社会』がどうあるべきかについて日々研究しています。

環境地盤工学研究室(椋木准教授)

椋木研究室は地盤の汚染や浄化を対象に研究を行っています。実験だけではなく画像解析や数値解析など、多くのことに取り組めるため様々なスキルを身につけることができます。研究活動では、国際学会に参加したり留学したりする人もおり、積極的に取り組めば大きく成長するチャンスをつかめる研究室です。また、留学生や海外からの研究者の滞在回数が多く国際交流を通じて自分を高める環境が整っています。

研究活動以外では、学内のスポーツ大会に参加したり、コアタイム後に河川敷でサッカーをしたり、アクティブに活動しています。充実した研究室生活を送りたい、という人にはぴったりの研究室だと思います。

流域環境デザイン研究室(皆川准教授)

河川・流域環境デザイン研究室では豊かな国土づくりを目指し、自然と共生した川づくりや自然再生に関する研究を行っています。

研究のフィールドは幅広く、流域を対象に生物多様性の保全、人と自然との共生、自然を活かした防災・減災にむけて、大学や他分野の研究者、市民や行政とも連携を図りながら日々研究に取り組んでいます。

さらに、近年注目されている環境 DNA 分析を用いた研究も行っており、他大学にも負けない最先端を走る研究室だと自負しております。(文責: 学生)

川遊びや生き物が好きな人、環境保全に興味のある人は、ぜひ当研究室に足を運んでみて下さい。

□研究室配属人数 (平成 30 年 4 月 30 日現在、10 月入学生、社会人を含む)

	研究室(順不同)	学部 4 年	修士 1 年	修士 2 年	博士 1 年	博士 2 年	博士 3 年	研究員	合計
土木工学 教育プログラム	地盤工学研究室	4	5	1			2	3	15
	河川環境工学研究室	5	2	1	1				9
	地下空間工学研究室	6	2		1		1	1	11
	地域公共政策研究室	4	2	3		1	1	1	12
	環境建設材料工学研究室	4	5	4			1	1	15
	応用海岸研究室	4	1	1			1		7
	交通まちづくり研究室	5	5	2	1		3		16
	コンクリート工学研究室	5	1	2					8
	構造力学研究室 (※葛西准教授)						1		1
	深部地下環境工学研究室	5	1	2				1	9
	地域防災研究室	4	1	2					7
	流域環境デザイン研究室	5	2	1		1		3	12
	環境地盤工学研究室	4	3	1	1	1	2	1	13
政創研	地域風土計画研究室	4	3	4	1			1	13
地域デザイン 教育プログラム	水質環境工学研究室	5	2				1	1	9
	地域水循環デザイン研究室	5	2	2					9
	災害リスクマネジメント研究室	4	1	2	1				8
	景観デザイン研究室	5	3	4		1		1	14
	交通政策分析研究室	4	3	2	1		1		11
	合計	82	44	34	7	4	14	14	199

景観デザイン研究室(星野准教授)

「景観」ってなんだろう？皆さんが家を出て大学まで来る間に、毎日目にしている山や川、道路や建物、それらが「景観」です。つまり、皆さんの日常そのものです。では「デザイン」は？ある有名なデザイナーは、「デザイン」のことを「近未来の手触り」と表現しました。カッコいいものを作るとかではなくて、ちょっと良い未来を、手触りのあるリアルなものとして提示してあげること、これが「デザイン」です。私たちの普通の日常を少しでも豊かなものにするための工夫をし、手触りのあるものとして実感してもらおう。そのためには、まずは自分たちの毎日から考える。それが私たち研究室のテーマです。

国内外の学会で成果発表をした後は、皆で現地の名物を食べることも楽しみます。また、研究だけでなく定期的に飲み会や夏にはキャンプに行くなど研究室のイベントも充実しています！興味のある方は、ぜひ当研究室をのぞいてみてください。

交通政策分析研究室(円山准教授)

私たちが研究室では交通や都市を中心に幅広いテーマで研究に取り組んでいます。交通についてはスマートフォン型調査を利用して熊本市中心部や大学内の回遊行動を分析しています。また、交通実態調査結果の新たな分析方法として、単身世帯の増加や専業主婦の減少に伴う世帯不在率の増加の実態を明らかにしています。そのほか、熊本地震の益城町被災者の住まいの意向変化や被災者支援の制度に関する研究もしています。

災害に関する個人行動や社会現象を経済学や心理学の観点から分析する研究をしています。統計手法を用いた研究が多いので、データを基づいて客観的に世の中を見る基礎的な技術・能力が身に付きます。

研究室としては学生の自主性を重んじるのが特徴です。誰かに指示されるのを待つのではなく、自分で自発的にものごとを考えられるようになってもらいたいと思っています。

M2の学生が1名、M1の学生が1名、4年生が4名、インドネシアのD1の学生、ケニアのM2の学生が1名います。今年の秋からチュニジアから修士の学生が新たに加わる予定です。みんな気のいい学生で、いろいろな親切に相談ののってくれると思います。

災害リスクマネジメント研究室(藤見准教授)

教職員紹介

教員氏名 (研究室名)	職 名	近 況
大谷 順 (地盤工学研究室)	教授	今年 6 月より 2 年間、公益社団法人地盤工学会の第 35 代の会長になり、学会の仕事が忙しくなりました。学会のホームページを見るいろいろな活動が確認できます。是非一見を！
大本 照憲 (河川研究室)	教授	本年 1 月初旬から運動不足解消のために自宅と大学の往復約 7km 強を徒歩で通っています。おかげで、四季折々の変化を楽しむことが出来ました。
尾原 祐三 (地下空間工学研究室)	教授	体力の低下と身体の各部位の劣化をひしひしと感じている今日この頃です。最近では、身体のこわばりと筋力増強を図るために、朝のストレッチと腹筋背筋運動を日課としています。
柿本 竜治 (地域公共政策研究室)	教授	最近では会議漬けの日々。隙間の時間を見つけて、2016 年熊本地震関連の総合調査や新しい研究にもチャレンジ中。年々体力も低下してきているので、ゆっくり研究を楽しむ時間が欲しいですね。
川越 保徳 (水質環境学研究室)	教授	3 時間以上、飛行機に乗る(閉じ込められる)のが嫌な私は、ここ数年、何とか海外出張から逃れてきた..が、この間、マレーシアに行って、「近場なら、まあいいかも」と、思い直す今日この頃。
重石 光弘 (環境建設材料工学研究室)	教授	なぜか最近大学の内外で骨材の専門家のように思われています。ふふっ、まあ別に構いませんが。さて、もう一仕事頑張りますか。
辻本 剛三 (応用海岸研究室)	教授	赴任して 3 回目の熊本の夏です。学内のバドミントンと坪井川沿いのランニングのお蔭もあって、高めの血圧もほぼ正常に戻り安心しています。酷暑と水害が気になります。
溝上 章志 (交通まちづくり研究室)	教授	定年まで 2 年半となり、国交省の大型外部資金を得て、「完全自動運転車とシェアリングが融合したモビリティ社会」を最後の研究テーマとして遂行中です。昨年までにカナダ、フランス、イギリス、ドイツを視察しました。
尾上 幸造 (複合材料工学研究室)	准教授	最近では、数学や物理の苦手な学生が多いようです。数式は便利ですが、あまりそれに頼り過ぎず、本質的な事項について具体的なイメージが湧くような講義を心がけたいと思っています。
佐藤 晃 (深部地下環境工学研究室)	准教授	毎日の筋トレと月 100km 以上走ることに喜びを感じている今日この頃です。ダイエットとかそういう目的ではないにせよ、しかし、この 1 年で体重は減るところか 2kg 増...涙)なんとしたものか...
竹内 裕希子 (地域防災研究室)	准教授	現在顧問を務める「熊本大学学生災害復旧支援団体 熊助組」が日本防災士協会から表彰されました。2007 年の設立以降、多くのメンバーが培った経験が評価されました。これからも「熊助組」をよろしく願います。
田中 尚人 (地域風土計画研究室)	准教授	熊本地震からの復興の格差を感じつつも、地域の個性を活かしたアクションリサーチに取り組んでいます。研究室として長年関わってきた天草市河浦町崎津集落が世界文化遺産に登録され、うれしく思っています。
濱 武英 (地域水循環デザイン研究室)	准教授	春からゴルフをはじめました。毎週、スクールに通い、学生気分を味わっています
藤見 俊夫 (災害リスクマネジメント研究室)	准教授	子供たちを連れて家族で宮崎に行きました。台風が近かったため波が大きかったので浮き輪で波にのって楽しんでました。
星野 裕司 (景観工学研究室)	准教授	4 月から教習所に通い始め、この夏に、とうとう大型のオートバイを購入しました。熊本のまわりには、魅力的な風景があふれています。風景の新しい感じ方ができるんじゃないかとワクワクしています。
円山 琢也 (交通政策分析研究室)	准教授	3 年生の担任としてインターンシップ関係では学科の先輩方に大変お世話になっております。LINE 世代の学生に電子メールのマナーから教える日々です。
皆川 朋子 (河川・流域環境デザイン研究室)	准教授	現地調査シーズン到来です。熱中症にならないよう学生共々体調管理万全にしたいと思います！
椋木 俊文 (環境地盤工学研究室)	准教授	少年野球を通じて、野球の面白さがわかるようになってきました。研究は、防災系の研究テーマも最近始めました。
石田 桂 (河川研究室)	助教	今年の出張はアメリカばかりなので、頑張って来年はほかの国にも行きたいです。
伊藤 紘晃 (水質環境学研究室)	助教	熊本の人と結婚しました。お陰様で私生活からの熊本や九州についての新発見が多くなりました。ですが、まだまだ熊本は奥が深く、知らないことがたくさんあります。熊本弁はまだ勉強中です。
葛西 昭	准教授	入院加療中

〔 技術部・事務補佐員 〕

友田 祐一	技術専門員	池田 郁子	大本、藤見、濱研究室秘書
外村 隆臣	技術専門職員	園山 恵	尾原、佐藤研究室秘書
吉永 徹	技術専門職員	草場 静香	大谷、椋木研究室秘書
佐藤 宇紘	技術専門職員	出田 香織里	田中研究室秘書
上田 誠	技術職員	小川 香名子	星野、円山研究室秘書
友田 桂子	土木建築工学科土木系事務室	椎葉 真弓	減災センター
		森永 尚子	溝上研究室秘書、蘇遙会事務局

※2018 年 3 月退職 矢北 孝一

出前講義 感想

6月29日に出前講義が行われました。蘇遙会学生部では東京支部の方々と連絡を取り、企画の段階から準備を始めていました。当日は梅雨明け直前の曇天でしたが、講師の先輩方も無事に到着され、出前講義ではゼネコン、コンサル、公務員、メーカーなど様々な業種のお話を伺うことができました。普段の仕事のとき以外はどのような過ごし方をしているのか、会社で働いて一番大変なことやどこに魅力を感じているのかなど、なかなか職業説明会では聞けないような話も伺うことができました。

講師の方々からは社会人ならではのリアルなお話をいただき、多くの学生の刺激になりました。公務員志望だった私にも、志望以外の職種とその業務内容を知ることにより選択肢が増え、大変有意義なものになりました。講義をしてくださったOB・OGの方々が、仕事にも私生活にも充実感を感じておられ、忙しさはあるものの、自分でタスク管理をして休日を得たり、大きな仕事を任せられるようになったりと、目標を達成する喜びを日々感じながら過ごしておられる姿に、働くことの楽しさを知ることができました。

いつかは私たちが講師となって後輩に胸を張って仕事を語れるようになりたいと思います。未筆ではありますが、今年もお忙しい中、遠路お越しいただいた先輩方に御礼を申し上げるとともに、企画・実行にご協力いただいた東京支部の皆様へ感謝申し上げます。
(学生部 松尾 星凜奈)

参加者の感想

学部3年 永石裕隆

今回の出前講義で企業も公務員もそれぞれ魅力があり、大変なことも存在することを教えていただいた。長所ばかりを紹介する一般的な講義ではなく苦労したことや欠点も教えて

くださり貴重な経験となった。これらを踏まえ、地域のために頑張れる公務員は非常にやりがいになると思い、勉強を頑張っていこうと思った。

学部3年 竹口勘太郎

今回、建設業界の中でもゼネコンやコンサル、公務員の方たちのお話をとても近い距離で聞くことができ、とても自分にとって大きな経験となった。その中でもグループワークでずっと疑問に思っていた実際の仕事内容や現実的なきつさ、ゼネコンを受けるうえで重要なことをネットの情報ではなく現場にいる方から聞くことができとても嬉しかった。

学部3年 高瀬将大

様々な職業の実態を、直接お話を聞くことでたくさん知ることができた。自分が興味を持っているゼネコンの分野においてはスキルアップが現場への貢献度を高めることが分かった。これはどの現場においても言えることであるが、それによってやりがいも大きくなることが分かった。よってスキルアップを目指して頑張っていきたい。

修士1年 浅田寛喜

働き方改革によって残業時間は減りつつあるが、災害が発生した時にやはり寝る間を惜しんで災害復旧などの迅速な対応が要求されることがあり、自分がもしその立場になった時にどのようなことを思っ仕事をしていけばよいかを知ることができた。また、メーカーに就職するという選択肢もあることを知り、話を聞くことでメーカーがどのような仕事をしているのかイメージを持つことができた。



講義の様子

◆平成30年3月学部卒業生進路【順不同】

労働基準監督署、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、南さつま市、鹿児島市、広島市、福岡市、北九州市、熊本市、(株)大林組、五洋建設(株)、新日鉄興和不動産(株)、(株)スペースエージェンシー、(株)不動テトラ、前田建設工業(株)、若築建設(株)、(株)一条工務店熊本、建設技術研究所、(株)ティーネットジャパン、日本水工設計(株)、八千代エンジニアリング(株)、(株)戸高鉦業社、SRA西日本(株)、(株)エムエスシーソフトウェア、西部ガス(株)、JR九州旅客鉄道(株)、電源開発(株)、西日本旅客鉄道(株)、西日本高速道路(株)、独立行政法人都市再生機構、熊本大学大学院自然科学研究科博士前期課程、東京大学新領域環境システム学専攻博士前期課程、熊本中央信用金庫、熊本赤十字病院、起業予定

◆平成29年3月大学院(前期・後期)卒業生進路【順不同】

国土交通省、北九州市、福岡市、熊本市、国立大学法人熊本大学、(株)アバンス、(株)大林組、鹿島建設(株)、五洋建設(株)、清水建設(株)、(株)竹中工務店、東亜建設工業(株)、東洋建設(株)、(株)片平エンジニアリング・インターナショナル、九州建設コンサルタント(株)、サンコーコンサルタント(株)、(株)東京建設コンサルタント、(株)日水コン、日本工営(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)福山コンサルタント、(株)龍上工業(株)、日本鉄塔工業(株)、日立造船(株)/環境事業本部、(株)横河ブリッジホールディングス、(株)アーク情報システム、(株)ナビタイムジャパン、阪神高速技研(株)、独立行政法人水資源機構、熊本大学大学院自然科学研究科博士後期課程、福岡銀行

ご挨拶 3年 学生部部长 脇村真平

熊本地震が発生してから2年が経ちました。私たちの学年(3年生)は入学してすぐに被災しました。被災当時は土木に関する知識もなく守ってもらう側の人間でした。将来日本では南海トラフ地震などの災害も想定されており、土木技術者の頑張り次第で被害を小さくできるはずですが、次の災害では守ってもらう側ではなく、守る側の人になれるように被災した時の気持ちを忘れずに勉強、研究に励みたいと思います。

3年生の現状としましては、私の周りでは防災関係の道に進みたいという人ももちろん多いのですが景観系の研究室に興味があるという人も多いように感じます。熊本大学では景観

に関する授業がほかの大学に比べて多いため、景観に対する興味を持つ人が多いのではないかと思います。就職に関してはゼネコンを志望する人よりもコンサルタントや公務員を志望する人が多い傾向にあると感じます。また後輩の話を聞く限り、3年生だけでなく1、2年生も同じような傾向があるように感じます。

最後になりましたが、OBの方々には日頃から様々なご支援やご指導をしていただき大変感謝しております。これからも引き続きご支援やご指導していただけるよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

学生部活動報告

紫熊祭(しくまさい)に出店しました



平成29年11月3日～5日

熊本大学の学園祭である紫熊祭に今年も蘇遙会として出店しました。蘇遙会名物メロンパンアイスを販売したところ、多くの来場者の方が購入して下さいました。3年生の役員だけでなく1、2年生や役員以外の3年生も準備や運営に協力してくれたため、交流を深めることも出来たのではないかと思います。社会環境工学科の先生方や、蘇遙会のOBの方々も足を運んでくださり、売り上げに貢献して頂きました。例年よりも気温が低く、寒い日が続いたため、売り上げが伸びるか不安なところもありましたが、有名アーティストのライブなどで来場者の数が多かったことや、多くの方の宣伝効果等のおかげで、目標とされていた売り上げを達成出来ました。また、紫熊祭実行委員により企画されているグルメグランプリでは来場者の方の投票の結果、デザート部門で見事3位になることが出来ました。

2018年度のテーマは

「輪～全体で1つの輪を作って繋ごう～」

今回このコンセプトにしたのは、サブタイトルにもあるように、全体の輪ができるようにという願いからです。今まであまり行事に参加していなかった人を含め、社会環境工学科・土木建築学科の中を深めていきたいといった思いから今年度のコンセプトを「輪」としました。

3月から新体制での活動を開始し、南キャンパス裏の河川敷で様々なレクリエーションをしながらバーベキューでお花見をしました。こういった機会では先輩や後輩などと交流できるため、参加してくれた学生さんはとても満足していました。4月の新入生歓迎会では、まだ入学したばかりで大学のことについてあまり知らない1年生が、参加した学科の先輩や先生に何でも聞くことができる良い機会となったと思います。また、熊本大学のOBの方々と出前講義を企画し、6月に熊大で開催しました(詳細は3ページと11ページ)。今年の紫熊祭でも、メロンパンアイス販売する予定です。昨年度より売り上げを伸ばすことを目標にしていますので、ぜひ足を運んで頂けたらと思います。

その他にも学生部の活動として、ソフトボール大会やドッジボール大会などのスポーツ大会で同学年や先輩後輩との仲を深めるなど、定期的に行うイベントで学年を超えて交流をしています。また、毎年夏休みに研修旅行を行っています。今年は9月に菊池川の竜門ダムを見学させて頂く予定です。

蘇遙会学生部活動の一部をFacebookにて公開しています。



蘇遙会学生部